
メルマガ

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・復興支援事務所
NO.13 (2012年11月15日発信)

しっかい！

歩もう	つながろう
支えよう	広げよう
学ぼう	増やそう

★被災地関連情報★

引き続き募集中です！
問い合わせは連絡先へ直接行ってください。

【山元町仮設の女性グループ支援】 中古ミシン提供募集！
連絡先[ささえ愛山元・中村怜子 080-3031-5722]

『被災地・東松島市の近況』

穴戸 昭広

仙台復興支援事務所の穴戸です。私の地元東松島市に限らず被災地全般とも言えますが、第1次産業が復活しつつあります。農業では被災した田畑が除塩され、今年コメが収穫出来ました。年明けのイチゴ農家の収穫がどうなるか気にかかるところです。漁業も海苔の採摘が始まり、牡蠣は夏痩せで遅れていますが、その後順調の様で年末には本格的に市場に出てくる筈です。

どちらもボランティアが、田畑や養殖設備の修復に貢献し、その設備・道具は『一口オーナー』の支援で揃えられ、ようやく田植えや養殖の時期に間に合う事が出来ました。リハビリは短期に集中して行う事で、回復度合いが変わる様に、復興も同じ事だと実感しています。

『第2回 走れ仙石線』

穴戸 昭広

タイトルは、11月10日（土）東名駅前で行われたイベントです。

知っている方も多いでしょうが、発起人がNPO法人のんびりすみちゃんさんの家の伊藤さんで、私は実行委員として参加しておりました。第1回の反省を活かし、地元住民が楽しむイベントになるように準備してきました。

第1回は今年3月10日（土）に行い、この時のマイナス材料は天候不良、プログラ

ム、告知手段・方法と費用でした。第1回の雨そして雪。これは改善しようありませんが、今回は、前回の隣駅からのパレードを止め、催しは県外のボランティア主体から地元・県内の団体になって数が減り、イベント時間を延長したので、前回の『時間不足に催し沢山』から、『ゆっくり興味ある内容』になりました。

前回の2会場を1会場に集約し、食事コーナーを約半分に。それでも交流スペースを前回以上確保し、子供用に『セルフ綿菓子機』を設置した事で、『たくさん食べる』から『楽しく食べる』となり好評でした。

そして、テント等設備品を市民センター等から借り、ボランティアと我々で会場準備をした事で非常に費用を抑えられました。近所の家全部にチラシをポスティングし、口コミで広がるように早い段階で住民に知らせたり、食事コーナーの一部を仮設の婦人会に頼んだりと地元を巻き込んだ事で、近所の方が、大勢・長い時間遊びに来てくれた事に繋がったと思います。バスツアーのみなさんが「さくら」で貢献したのもあると思います（笑）ありがとうございました。

『支援活動はまるで恋愛活動』

穴戸 昭広

私は地元の東松島市で2011年5月よりボランティアから始めて、現在まで支援活動をしてきました。その中でたくさんの支援者（団体）と出会い、協力し合う仲になってから、何度か支援のコーディネイトを頼まれる事があり、私は調整先のボランティア団体や行政、小学校等に『突然』相談の電話をしたり、訪問してきました。先に結果をトータルすると、いきなりにも関わらず、快く引き受けて頂く事が多かったと思います。そしてその時の気持ちが最近、恋愛の『告白』の時に似ていると気付いたんです。

『ダメでもともと、でも断られたらどうしよう。』と思い、

『なんとか成功させたい』となると、いろんな根回しを考え、アプローチが遅れウジウジしちゃうんです。私の恋愛パターンと一緒にした（笑）

10月、グリーントウンやもと仮設住宅でのパラソル喫茶で、《ふるまい酒》が提供されましたが、あれは、前々から仮設前にある日本酒の蔵元にいつか協力支援を『告白』したいと思っていたので、良いキッカケを頂きました。

素敵な相手を見つけた時、恋愛の『告白』もうまく行けば良いのですが・・・

『ニッペ de カフェテラス』

清水 和子

11月7日に若林区ニッペリア仮設の「ニッペ de カフェテラス」で、食事+カフェ活動がありました。

この日は天気がよかったので、クラブハウスの前のテラスにはカフェテーブルにパラソ

ルを立て、12～3人の席が用意されていました。クラブハウスの中では既に席につき、おしゃべりをしている人達も見受けられました。

ニッペのスタッフは70食の調理や配膳で手いっぱい、その作業が向かいの仮設の台所付き談話室で行われているため、クラブハウスまで目が行き届きません。

コーヒー淹れは、今までずっとコーヒーを淹れてくれていた男性が仮設を出て自宅に戻っていたのを、この日だけは出かけてきて手伝ってくれていました。私たちもすぐ作業にとりかかり、そこに集まっていた人達にコーヒーが行き渡るのに少々時間がかかりましたが、今回もボランティアの佐々木さんのイングリッシュホルンの演奏があったので、昔のナツメロを口ずさんでいる男性がいらっしゃったり、ゆったりと食事の前の時間を過ごしていました。

ランチのメニューは、栗ご飯、鮭のフライ（キャベツ添え）、きんぴら、青菜ともやしのお浸し、味噌汁、漬物でした。参加者は55名。スタッフ8名。巡回のお巡りさんも5名参加し、次回も勤務の日にあたるのを楽しみにしているようでした。

イングリッシュホルンの演奏と共に食事とコーヒータイムをゆったりと過ごせるこの活動が、皆さんに癒しとコミュニケーションの場として欠かせないものとなっていると感じました。

『「フクシマ」を語れない国なのではないでしょうか？』

古賀久恵

先日、被災地支援を行っている他団体の人たちと集まった時のことです。

「フクシマのネタでブログやフェイスブックを書くと、反応が殆どない」と。その場に居合わせた人が感じていた共通認識でした。

本日はご紹介する映画もその部類です。

第37回トロント国際映画祭（2012年9月開催）で最優秀アジア映画賞を受賞している日本映画なのに、日本全国で上映しているところはほんのわずかという映画があります。

園子温監督「希望の国」です。

<http://www.kibounokuni.jp/>

この映画、反原発映画というわけではありませんが、日本では敬遠されスポンサーが見つからず制作費は海外（イギリスと台湾）からの援助を受けて作られたそうです。

ストーリーは、東日本大震災から数年後の日本を舞台に、再び大地震と原発事故に見舞われ、政府の方針に振り回されながらも強く生きようとする人々の姿を描いたドラマです。認知症高齢者問題も描かれています。

設定は長島県。架空の街ですが、ロケ地が気仙沼の被災地なので、とってもしリアルな風景です。

この映画の中で、放射能に怯えながら生活している妊婦さんのセリフを引用します。

「これは見えない戦争なの。弾もミサイルも見えないけど、そこいらじゅう飛び交っ

てるの、見えない弾が！」

日本のメディアで取り上げられない映画となっているようなので、ここでご紹介させていただきます。

放射能との共生・共存を考えるのに、ぜひご覧いただきたい映画です。

【編集後記】

震災から1年と8ヶ月が過ぎましたが、今回の記事にもあるように、産業も交通もまだまだ復興途上です。一方で、先日お邪魔した仮設住宅の住民の方々には、1年前には見られなかった明るい笑顔があり、辛いことから立ち直る「人間力」を感じました。その力が、「フクシマを語る」方向にも向いてくれると良いのですが。(大久)